第Ⅰ部　司馬遷『史記』の古代東洋（オリエント）文化の原点である〈殷周革命〉の両義的性格について——3

第Ⅱ部　東アジア世界の土着的伝統思想——中国・インド・日本——103

第一章　英雄的ヴェトナム自己解放運動における儒教とマルクス主義との現代的フュージョン——105

第二章　『バガヴァッド・ギーター』の時代と、現代における「正法」と「非法」——113
——あわせて章炳麟・朝夷厚生・山村才助のインド論

第三章　日本・「自然真営道」——わたしの安藤昌益［解題・補足・批判］——167

［Ⅰ］緒言　167

［Ⅱ］安藤昌益『自然真営道』思想のキイ・ワード　184

第四章　安藤昌益の批判的＝ユートピア的共産主義思想の歴史的位置——219
——西力東漸下の東アジア冊封体制の解体過程における

［Ⅰ］ポスト・モダンはレトロから　219

［Ⅱ］近世日本の朱子学イデオロギーによる「三教一致」体系を超え出る昌益の「糞まみれの体系」　229

［Ⅲ］ヘゲモニー危機における「政統」問題 234
［Ⅳ］近世日本思惟における両極性の統一としての昌益「二別一真」「互性妙道」の弁証法 245
第五章 朱子学批判者としての安藤昌益 279
第六章 ［日本・鉄砲咄］日本近世の鉄砲は農具であった 293
第七章 安藤昌益著作ダイジェスト 441
［Ⅰ］『自然真営道』の「大序巻」より 441
［Ⅱ］稿本『自然真営道』「大序巻」冒頭 442
［Ⅲ］稿本『自然真営道』第二十五「真道哲論巻」 444
［Ⅳ］稿本『自然真営道』第一「私制字書巻二」 455
第八章 ［日本・米作「石高制」国家の国民的形成と、その歴史的意義］ 459
——〈コメ一元論〉の極北で、安藤昌益「直耕論」は、形成された
第九章 ［日本・近世衣料＝灯火革命と、安藤昌益「邑政」］ 505
——安藤昌益のコメ一元純化論と「邑政」の独裁・粛清論